

学名 その2

ヤマトグサ
と
キレンゲシヨウマ

ヤマトグサ (大和草)

牧野富太郎が1884年に牧野富太郎が 高知県で最初に発見し、和名・学名とも初めて命名した植物として知られている。

1887年「植物学雑誌」に大久保保三郎との連名で

Cynocrambe japonicum Okubo et Makino

現在は下記学名が通用している

Theligonum japonicum Okubo et Makino





キレンゲショウマ 黄蓮華升麻

Kirengesyoma parmata Yatabe

命名者Yatabeは篤太郎を破門した東京
大学植物学教室：矢田部良吉教授

矢田部教授は1890年(明治23年)「泰西植物学者諸氏に告ぐ」と題した論文を發表し、自らの手で「シチョウゲ」(あかね科)、「ヒナザクラ」(さくろそう科)の学名を命名、3番目にキレンゲショウマウマを命名した。



宮尾登美子とキレンゲシヨウマ

宮尾登美子の小説「天涯の花」の中で、主人公“珠子”が愛した花として何回も登場します。

孤児“珠子”が徳島県剣山にある剣神社の宮司夫妻の養女となり、山中密かに咲くキレンゲシヨウマに出会った場面が生き生きと書かれています。





